

資料No. 4

江田島市公共交通協議会
令和5年6月27日

江田島市地域公共交通計画の成果検証について

1 概要

令和4年度からを計画期間とする江田島市地域公共交通計画（R4～R8年度）の評価指標により、事業の成果検証をしました。

2 各評価指標の達成状況

別紙を参照

計画の取組状況及び評価指標の達成状況（R4～R8年度末）

別紙

目標	事業名	具体的な実施状況	評価指標	評価指標の推移		現状値 H28～R元度 平均値	目標値 令和8年度	達成状況	目標未達成の場合の理由、問題点・課題等
				参考値 策定時 (R2)	R4 年度末				
基本方針 1 便利で持続可能な地域公共交通網の形成									
目標1-1 地域公共交通網の 持続可能性の向上	事業1 海上交通における移動手段の確保 ○生活航路に対する補助の実施 ○中町・高田～宇品航路の公設民営による運航 ○生活航路の維持に対する国・県への要望活動の継続 ○船員募集記事の市広報紙等への掲載 ○事業者が保有する船舶の更新に関する市との情報共有 ○航路網の将来イメージに関する事業者との協議 ○航路の持続可能性に寄与する次世代技術の情報収集	○生活航路に対する補助の実施 ○中町・高田～宇品航路の公設民営による運航 ○生活航路の維持に対する国・県への要望活動の継続	中町・高田～宇品航路の収支差	▲5,677万円	▲5,397万円	563万円	平均値よりも改善	×	・コロナ禍に伴う利用者減や燃料費の高騰等により大幅な赤字となり、目標値を達成できなかった。 ・中町航路においては、ニュー千鳥の運航終了に伴い、令和5年5月から従来よりも小型のエンジンを搭載した新造船を投入しており、今後燃料費等の維持管理費が減少する見込みである。
	事業2 陸上交通における移動手段の確保 ○路線バスに対する補助の実施 ○乗合タクシー「おれんじ号」等の運行 ○スクールバスの運行 ○カーシェア及びレンタサイクルの維持 ○乗務員募集記事の市広報紙等への掲載 ○生活交通維持に対する国・県への要望活動の継続 ○自動運転等の導入に向けた情報収集	○路線バスに対する補助の実施 ○乗合タクシー「おれんじ号」等の運行 ○スクールバスの運行 ○カーシェア及びレンタサイクルの維持 ○生活交通維持に対する国・県への要望活動の継続	路線バスの収支差	▲11,052万円	▲9,542万円	▲6,759万円	平均値よりも改善	×	・昨年度よりも赤字額は圧縮したが、コロナ禍に伴う利用者減や老朽化した車両の更新に伴い、赤字額は高止まりしており、目標値を達成できなかった。 ・昨年12月の運航実績に応じた路線網の再編を行ったため、今年度の補助金額は削減する見込みである。 ・江田島バス(株)と協議しながら、新たな増収策の検討を行う。
			乗合タクシーの収支差	▲1,720万円	▲1,798万円	▲1,670万円	平均値よりも改善	×	コロナ禍に伴う利用者減や燃料費の高騰等により、昨年度よりも赤字額は拡大しており、目標値を達成できなかった。
			公共交通等の維持確保に係る市の財政負担額	12,579万円	11,284万円	8,836万円	平均値以下に抑制	×	昨年度よりも市負担額は減少したが、コロナ禍に伴う利用者減や燃料費の高騰等により、依然として高止まりの状態が続いている。
目標1-2 地域公共交通網の 利便性の向上	事業3 ニーズを踏まえた地域公共交通網の見直し ○公共交通機関の運航（行）に関する覚書の遵守 ○航路接続及び移動ニーズを踏まえたバス路線網の再編	○航路との接続改善及び利用実態に即した運行資源の効率化等を図るバス路線網の再編 (R4.12)	海上交通に対する陸上交通の25分以内接続率	—	53.8% (342/636便)	38% (249/648便) 令和3年度	現状値以上に改善	○	令和4年12月にダイヤ改正を行った。船とバスの接続を意図としており、接続率の向上につながっている。今後も江田島バスと協議しながら利用率にも目を向けていく。
基本方針 2 わかりやすく魅力的なサービス提供と利用促進									
目標2-1 利用しやすい環境 整備・情報提供	事業4 公共交通の利用環境の整備 ○キャッシュレスに対応した決済サービスの推進・継続 ○交通事業者による感染症対策や魅力向上に関する取組の支援 ○中継ターミナルゆめタウン前バス停の利用環境の向上に関する検討	○新型コロナウイルス感染症対策（マスク・消毒液・抗原検査キッドの購入）の他、車両の環境整備に関する取組	環境整備・情報提供策の実施 メニュー数	—	3件	—	累計5件以上	△	・昨年度よりも赤字額は圧縮したが、コロナ禍に伴う利用者減や老朽化した車両の更新に伴い、赤字額は高止まりしており、目標値を達成できなかった。 ・江田島バス(株)と協議しながら、新たな増収策の検討を行う。 ・市の公共交通支援補助金を活用し、感染症対策を目的とした利用環境の整備を図った。 ・令和6年度末でサービスが終了となるPASPYに代わる新乗車システムについては、江田島バス(株)を含む関係者等と協議しながら、方向性を定めていく。
	事業5 利用者が分かりやすい公共交通情報の提供 ○公共交通マップの作成 ○バスロケーションシステムやデジタルサイネージの運営 ○Google路線検索や民間乗換案内への対応 ○路線番号の導入 ○来訪者にも分かりやすいバス停名への見直し ○居住地別の公共交通時刻表の作成 ○棧橋別の公共交通時刻表の作成 ○交通結節点への交通案内表示の設置	○路線番号の導入 ○棧橋別の公共交通時刻表の作成							
目標2-2 利用したくなる公 共交通サービスの 提供	事業6 需要の掘り起こしに向けた取組の実施 ○公共交通を利用した観光ルートへの公開 ○関係機関が実施するイベント・チケット等との連携 ○需要喚起・利用促進イベントの実施	○おでかけ無料乗車day(2回)…2,667人 ○乗って×食べてえたじまスタンプラリー…107人 ○イマナビフェスタ…857人	需要喚起策や利用促進イベントの参加人数	—	4,686人	678人/年 (令和2年度)	5,000人/年	×	・目標値の5千人/年には届かなかったが、参加者数は年々増加しており、公共交通事業者等と連携しながら、更なる利用促進策を図っていく。
	事業7 運賃負担の軽減策の実施 ○通学定期券購入補助制度の実施 ○妊婦健康診査交通費等助成金制度の実施	○通学定期券利用者数…499人 ○妊婦健康診査交通費等助成金利用者数…延べ556人							
	事業8 新たな技術を活用した公共交通サービスの調査・研究 ○ICTを活用した公共交通サービスの検討								

基本方針3 地域公共交通を守り、育てる意識の醸成									
目標3-1 地域公共交通に関する意識啓発	事業9 モビリティ・マネジメントの実施 ○公共交通の現状に関する周知・啓発 ○ターゲットに合わせたモビリティ・マネジメントの実施 ○住民主体による移動手段の確保に向けた周知・啓発	○市HPに住民が主体となったボランティア輸送例の紹介 ○ダイヤ再編前に自治会へ周知・説明の実施	モビリティ・マネジメントに係る取組件数	—	2回	0回 (令和2年度)	2回/年	○	・今年度、利用率が低迷しているおれんじ号江田島北部地域での出前講座の実施を検討中。 ・公共交通の利用者数の現状について、市HPや広報紙で周知を図った。また、住民主体による移動手段の確保に向けた周知については、地域包括支援センターと連携し、地域の意見を把握しながら、取組を進める。
全体的な評価指標									
上記1～9に取り組むことによる総合的な効果	公共交通（航路、路線バス、乗合タクシー）の年間延べ利用者数 （航路は国土交通省に港湾統計調査から、路線バス・乗合タクシーは各運行事業者から市が収集し把握する）		航路	1,608千人	R3数値 1,548千人	1,986千人	1,695千人	—	・コロナ禍により働き方や生活様式が一変した社会状況の中、バスとおれんじ号の利用者数は令和2年度よりも回復したものの、航路については、減少となった。 ・交通事業者や関係機関等と連携し、江田島市地域公共交通計画に掲げた事業を推進しながら、目標値の達成を目指す。
		路線バス	442千人	492千人	499千人	511千人	×		
		乗合タクシー	7.5千人	8.2千人	9千人	11千人	×		